

イネいもち病菌に対するストロビルリン系(QoI) 代替薬剤の効果

農業研究部

1. 研究の背景

平成24年7～8月に県内水稲圃場において、QoI剤を含む育苗箱施用剤を使用しているにもかかわらず、葉いもちが多発している事例が認められた。そこで、県内各地から採取したいもち病菌の薬剤感受性実態と、いもち病に対するQoI代替剤の防除効果を明らかにした。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

平成24～25年度にかけて、県内の水稲から葉いもち及び穂いもちを採取しQoI剤耐性菌検定を行った結果、耐性菌の発生地域と代替薬剤の防除効果が判明した。

表1 QoI剤耐性いもち病菌の検定結果

採取地区	平成24年度		平成25年度	
	採取圃場数	耐性菌株率(%)	採取圃場数	耐性菌株率(%)
竹田市	1	0	—	—
大分市	6	0	4	5.9
豊後大野市	5	80	4	16.7
臼杵市	2	100	2	30.8
豊後高田市	1	100	2	75.0
中津市	—	—	2	33.3
宇佐市	—	—	2	33.3
由布市	—	—	1	30.0
佐伯市	—	—	5	4.3
国東市	—	—	1	0
日田市	—	—	1	0
計(平均)	15	45.6	24	20.2

表2 QoI剤耐性いもち病菌に対する各薬剤の防除効果

系統	供試薬剤	防除価	使用時期
MBI-R、ピリミジン系	ブラシン水和剤	100	本田
MBI-R、抗生物質	カスラブサイド水和剤	100	本田
MBI-R、その他	ピカピカ粒剤	100	育苗箱
MBI-R	ビームプリンス粒剤	100	育苗箱
抵抗性誘導	ツインターボフェルテラ箱粒剤	91.2	育苗箱
その他	フジワン粒剤	81.8	育苗箱
QoI	嵐プリンス箱粒剤10	0	育苗箱
—	無処理	—	—

耐性菌率は45.6%（平成24年度）から20.2%（平成25年度）に低下していたものの、県内広域にわたって耐性菌が存在していた。QoI剤耐性いもち病菌に対する代替薬剤の防除効果はいずれも高かった。

薬剤耐性菌を発生させないために、QoI剤は引き続き使用を中止し、代替薬剤を使用する。

3. 期待される効果

QoI代替剤を使用することで、いもち病を効果的に防除することができる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫チーム

TEL：0974-28-2078

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8